





日本総鎮守 大三島宮 大山祇神社

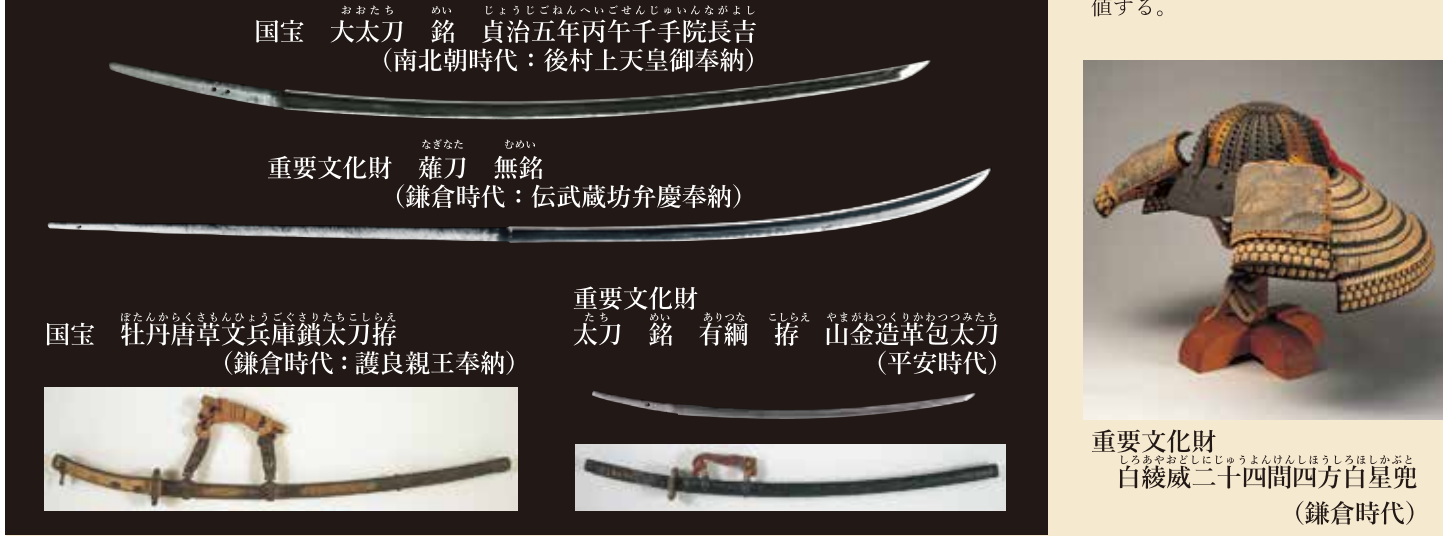
18 国 国重 有 民 記 【工芸品】【建造物】【石造美術】【彫刻】
【典籍】【古文書】【天然記念物】【無形民俗文化財】



大山祇神社は、瀬戸内海の多島美を象徴する芸予諸島の大三島に位置し、鷲ヶ頭山(国指定 名勝大三島)の山麓で、日本最古の原始林社叢のクスノキ群(国指定 天然記念物)に覆われた境内に鎮座している。伊予国一宮であるほか、日本総鎮守と称され全国の三島神社や大山祇神社の総本社で、古くから山の神、海の神、戦いの神として信仰され、朝廷や武将からも尊崇を集めていた。本殿、拝殿のほか、武将が戦勝祈願や御礼に奉納した武具甲冑など数多くの文化財が残っており、調査研究の結果、国がその価値、重要性を認め文化財指定を行い保護しているものが85件(国宝8点、重要文化財76件、国天然記念物1件)、愛媛県が価値を認め県指定文化財に指定し保護しているものが8件(有形文化財6件、記念物1件、無形民俗文化財1件)あり、中でも甲冑類は全国の国宝、重要文化財の4割を有し、全国の神社に類例を見ない一大宝庫となっている。



国宝 紺糸威鎧・兜・大袖付 (平安時代:河野通信奉納)
国宝 赤糸威鎧・大袖付 (平安時代:伊予守源義経奉納)
重要文化財 黒紫春威胴丸・大袖付 (平安時代:木曾義仲奉納)
重要文化財 色々威鉄腹巻・籠手付 (室町時代)
これらは鎧と胴丸の特色を兼ね備えた特殊な形状の鎧であり、現存では唯一の源義経が源平合戦に大勝を収めた後、家臣佐藤忠信により代参奉納したと伝わる。別名「八咫飛びの鎧」



国宝 大太刀 銘 貞治五年丙午千手院長吉 (南北朝時代:後村上天下皇御奉納)
重要文化財 薙刀 無銘 (鎌倉時代:伝武蔵坊弁慶奉納)
重要文化財 牡丹唐草文兵庫鎖大刀拵 (鎌倉時代:良親王奉納)
重要文化財 太刀 銘 有綱 拵 山金造草包太刀 (平安時代)
重要文化財 白綾織二十四間四方百星兜 (鎌倉時代)

中世の甲冑知識
大鎧:騎馬の弓射戦に適し、専ら武将が着用したもので、兜と大袖が付く、重量があるが防御力が高い。草摺は四間で、草摺を一冊付けた脇盾を左肩から右腕腹に吊り、その後には前後が一緒に繋ぎの衝駒を左側から着け、右側で引合緒で結ぶ。
胴丸:元来下級の武士が着用したものであるが、大鎧と比べると軽便で機動性が高いため、室町時代には胴丸と同様に筋兜、大袖をつけて武将も着用した。草摺は七間に分れるものが一般的で、背巾から体を入れて引き合わせる。
腹巻:こちらも元来下級の武士が着用したもので、胴丸よりもさらに軽便であるが、室町時代には胴丸と同様に筋兜、大袖をつけて武将も着用した。草摺は七間に分れるものが一般的で、背巾から体を入れて引き合わせる。



国宝 高槻葡萄鏡
越智大領守興が日唐戦争(白村江の戦い)に際し、勅命によって出陣の時、齊明天皇が勅額奉納された唐鏡と伝えられ、唐時代初期、東洋唯一の最良品大型白銅鏡である。
県指定無形民俗文化財 一人角力
毎年春の御田植祭(旧暦5月5日)と秋の秋徳祭(旧暦9月9日)に施行される。「稲の精霊」と「力山」による三本勝負で行われ、稲の精霊が2勝1敗で勝つことで、春には豊作が約束され、秋には収穫を感謝するという意味がある。

大山祇神社に伝わる指定文化財



重要文化財(石造美術) 宝篋印塔
一蓮上人が建立したと伝えられる宝篋印塔3基、いずれも花崗岩製で中央のものが一番大きく総高394cm。余り蓮弁を基礎と上2段に備え合わせて3段にした入念な造りである。いずれもよく均整のとれた容姿で、様式、技法すべてが鎌倉時代の特色を備えている。中央の塔は基礎と塔身の間に語座を設け、この地方独特の塔型という荘厳な造りを用いられている。左の塔には文保2(1318)年大工法橋念心銘がある。
重要文化財(石造美術) 宝篋印塔
境内の全域にわたって林立するクスノキ群であり、目通り1m以上のクスノキが30本あり、その他多数の樹が群生している。最大のもは拝殿前の神木とされる小千御手植の楠(表紙樹)で、根回り20m、目通り11m、樹高16m、樹齢2600年と言われている。これに付くものは表裏の林地にあるもので、樹高48m、目通り8mであり、円形に広がる根株がことに美しい。クスノキ群の中には他に河野通有兜掛楠、能因法師御念心と呼ばれる古木もあり、これらクスノキ群がアラカシ、クロガネモチ等の巨木と混生して大社叢を形成している。

- 国 国指定文化財
県 県指定文化財
市 市指定文化財
登 国登録文化財
国 国宝
重 重要文化財
有 有形文化財
民 民俗文化財
記 記念物

10 市 有 【彫刻】 昌福寺 木造阿弥陀如来坐像



平安末期から鎌倉初期の制作とされ、絵彩がほどこし、玉眼、衲衣を着け定印を結んでいる。江戶時代に表面に手を加えたので各所に彫り直しがあがり、金泥彩もその時のものである。玉眼も後世入れられたもので、当初は彫眼と考えられている。光背・台座も後補、通常非公開。

19 市 有 【彫刻】 東門坊 木造胎藏界大日如来坐像 (木造釈迦如来坐像)



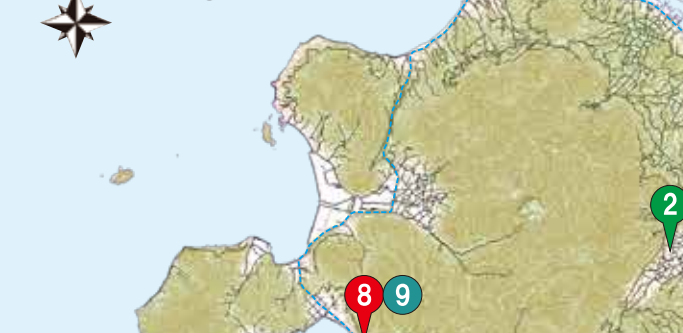
右像の頭部内の墨書に「元徳二年四月日院吉」とあり、院吉が鎌倉末期の元徳2(1330)年に制作したことがわかる。絵彩と考えられ、玉眼、肉身金泥、衣部漆箔仕上げ。当初の台座と光背を残しており貴重である。本像の尊名については、本像が大山祇神社の本地仏である理察印を結んだ大通智勝仏であるといわれている。

20 市 有 【彫刻】 東門坊 木造金剛界大日如来坐像 (木造大通智勝如来坐像)



薬師像は肉髻珠、白毫(いずれも水晶)、三道を表し玉眼とする。松材寄木造り。天文12(1543)年造立。目・月光像とも高僧を結い、冠台を表し、地髪は毛筋を表す。白毫(水晶)、三道を表し、玉眼とする。各本体、台座とも当初の基準作で、美術史的にも、歴史的にも貴重である。薬師像については、令和2年に修復。

21 市 有 【彫刻】 東門坊 木造薬師如来三尊像



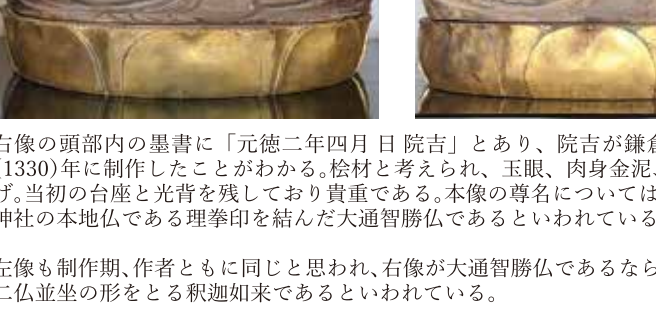
今治市玉川町畑寺の光林寺(0898-55-2438)へ連絡すれば、近所で管理されている方に連絡を取り、拝観することができます。

16 市 有 【彫刻】 奥の院 木造阿弥陀如来三尊像



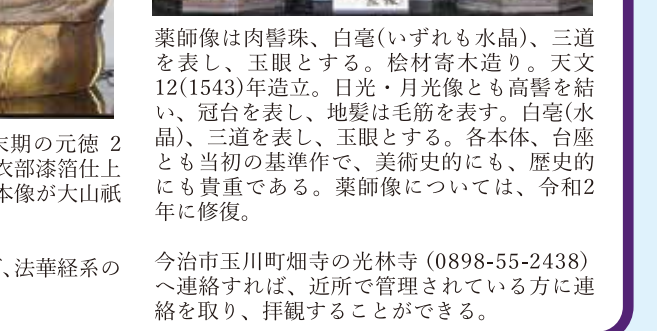
大山祇神社の奥の院として崇められた古像の一つであり、鎌倉初期の制作と考えられている。絵彩がほどこし、彫眼、光背、台座は後補。
旧暦4月22日の大山祇神社大祭及旧暦3月21日・7月21日・11月21日のお大師さん(お接待)にて御開帳。

22 市 有 【彫刻】 東門坊 木造南無仏太子立像

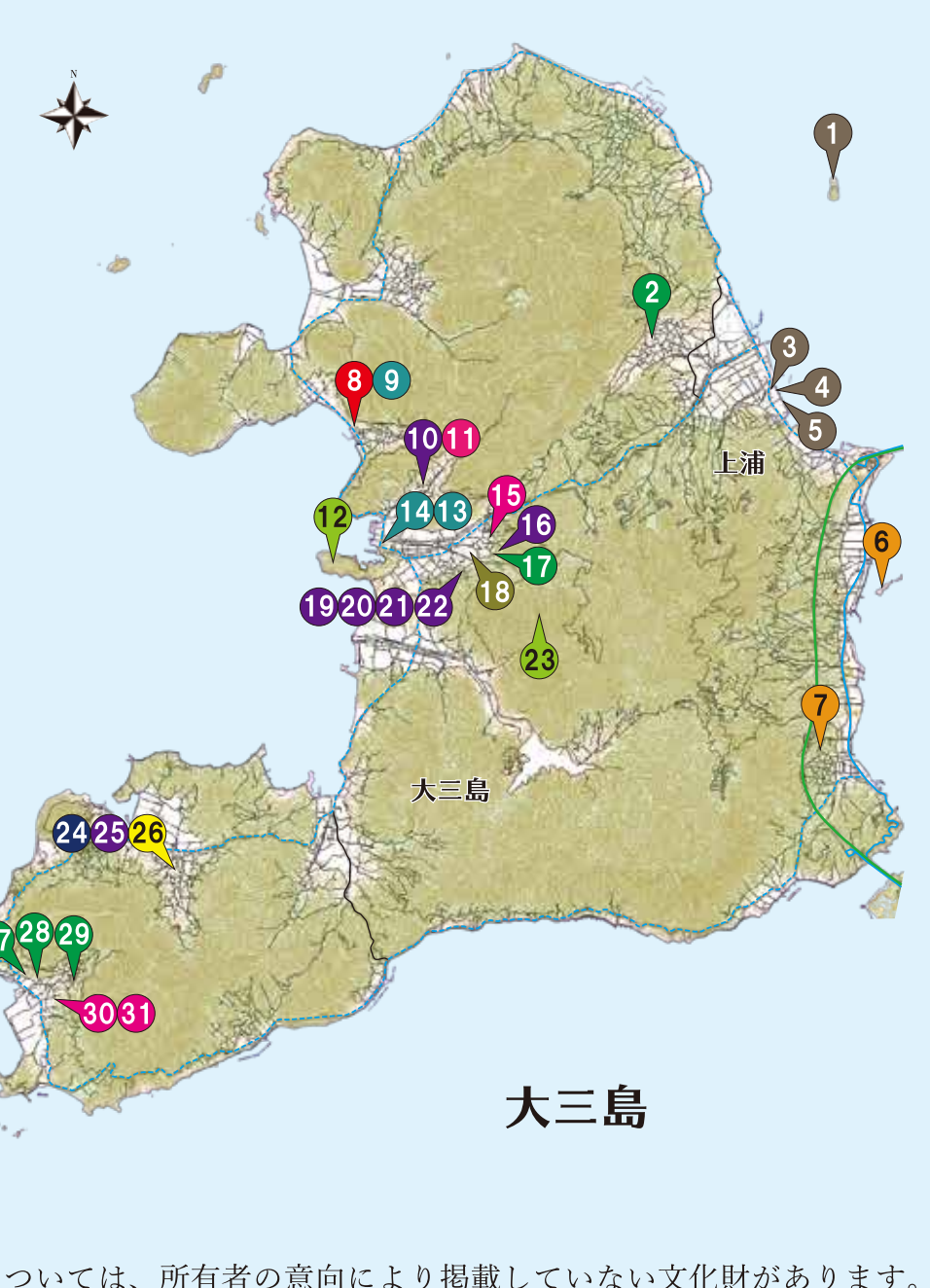


本堂に安置されている。阿彌陀の整像と観音・勢至の立像の組合せ。阿彌陀は肉髻珠、白毫(亡失)、三道を表し、彫眼。観音・勢至は頭頂から足元まで一材製。三尊とも彫眼で、肉身金泥、衣部漆箔仕上げ、拝観可。

25 市 有 【彫刻】 万福寺 木造阿弥陀如来三尊像



本堂裏に安置されている。阿彌陀の整像と観音・勢至の立像の組合せ。阿彌陀は肉髻珠、白毫(亡失)、三道を表し、彫眼。観音・勢至は頭頂から足元まで一材製。三尊とも彫眼で、肉身金泥、衣部漆箔仕上げ、拝観可。



23 国 記 【名勝】 大三島

島のほぼ中央にそびえる標高436mの鷲ヶ頭山は近島第一の高さであり、全山花崗岩で覆われている。頂上からの眺望はすばらしく、眼下に浮かぶ瀬戸の島々はほろろと、燈籠をこえて望まれる石鏡連峰のほかに、中国山地も見渡すことができる。

3 登 有 【土溝建造物】 井口四番浜北丸樋

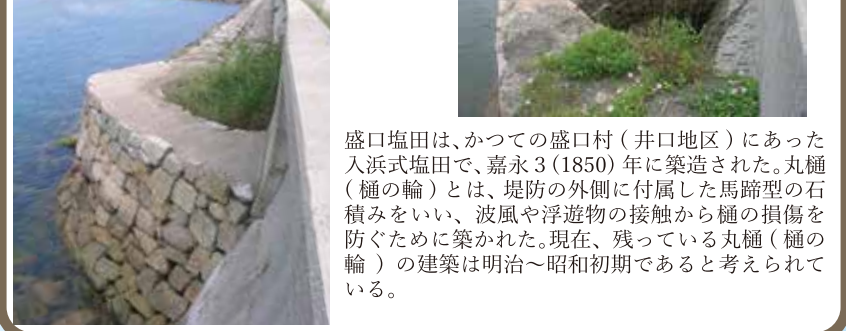


島内には広島島と愛媛県の境域が横切り、生口島の神と大三島の神が島取りを目的として御引きを行ったため、くびれてしまった島の形を双方の島民が配して相補することになったという民話が伝えられている。

12 県 記 【名勝】 御上山

御上山は宮浦港の南側に長く約700mも突出した半島の総面積160haの低い花崗岩の山である。暖帯常緑樹の自然林は、大三島のほかの自然林が少なくなった現在、貴重なものである。

4 登 有 【土溝建造物】 井口四番浜南丸樋



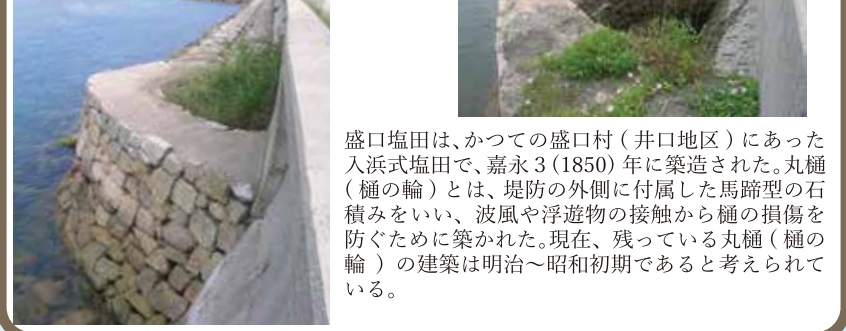
井口塩田は、かつての盛口村(井口地区)にあった入浜式塩田で、嘉永3(1850)年に築造された。丸樋(樋の輪)とは、堤防の外側に付属した馬蹄形の石積みをい、波風や浮遊物の接触から樋の損傷を防ぐために築かれた。現在、残っている丸樋(樋の輪)の建築は明治一昭和初期であると考えられている。

8 県 民 【無形民俗文化財】 大三島の神楽



大神楽は10年に1回行われていたが、現在では小神楽のみになっており、明日八幡神社では、毎年旧暦1月1日直近の日曜日、大見八幡神社では、毎年旧暦1月12日直近の日曜日に行われている。

5 登 有 【土溝建造物】 旧井口三番浜丸樋



盛口塩田は、かつての盛口村(井口地区)にあった入浜式塩田で、嘉永3(1850)年に築造された。丸樋(樋の輪)とは、堤防の外側に付属した馬蹄形の石積みをい、波風や浮遊物の接触から樋の損傷を防ぐために築かれた。現在、残っている丸樋(樋の輪)の建築は明治一昭和初期であると考えられている。

26 市 有 【書跡】 山号額 山岡 鉄舟



山号額の板刻が万福寺本堂正面の上部に掲げられている。本紙は軸表裏に保存しており、ご住職に許可を頂ければ拝観可能。

33 県 民 【無形民俗文化財】 岡村島の弓祈禱



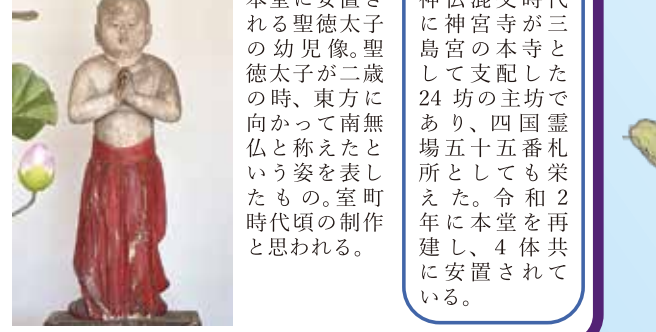
毎年2月の第3土曜日に郷土高神社境内に設けられた射場で行われている行事で、悪魔祓い、五穀豊穡、無病息災を祈願し始まったといわれている。

25 市 有 【彫刻】 万福寺 木造阿弥陀如来三尊像



本堂裏に安置されている。阿彌陀の整像と観音・勢至の立像の組合せ。阿彌陀は肉髻珠、白毫(亡失)、三道を表し、彫眼。観音・勢至は頭頂から足元まで一材製。三尊とも彫眼で、肉身金泥、衣部漆箔仕上げ、拝観可。

22 市 有 【彫刻】 東門坊 木造南無仏太子立像



本堂に安置されている。阿彌陀の整像と観音・勢至の立像の組合せ。阿彌陀は肉髻珠、白毫(亡失)、三道を表し、彫眼。観音・勢至は頭頂から足元まで一材製。三尊とも彫眼で、肉身金泥、衣部漆箔仕上げ、拝観可。

25 市 有 【彫刻】 万福寺 木造阿弥陀如来三尊像



本堂裏に安置されている。阿彌陀の整像と観音・勢至の立像の組合せ。阿彌陀は肉髻珠、白毫(亡失)、三道を表し、彫眼。観音・勢至は頭頂から足元まで一材製。三尊とも彫眼で、肉身金泥、衣部漆箔仕上げ、拝観可。

30 市 有 【絵画】 宗方八幡神社 劉玄德渡河図 山本雲漢



文政2年(1819)作。紙本淡彩表装で、「文政元乙卯歲初旬(初秋)吉祥辰/豫州今治 山本雲漢」とある。中国の三国時代の英雄、劉備が渡河する。見るからに勇壮な図柄である。年3回のお祭りにおいて拝観可能。

11 市 有 【絵画】 昌福寺 永平高祖御影伝 山本雲漢



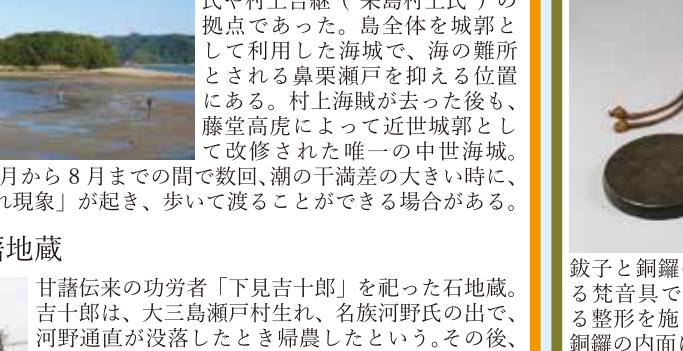
曹洞宗の開祖道元禪師の一代表図で、二相とも紙本着色。これを69区画に分け、区画ごとに関西の順から55歳で入寂するまでの生涯を追って描かれている。通常非公開。

6 県 記 【史跡】 甘藷地蔵



甘藷伝来の功労者「下見古十郎」を祀った石地蔵。古十郎は、大三島瀬戸村生れ、名族河野氏の出で、河野通直が没落したと帰農したという。その後、河野の急進に無常を感じ、十六六郎の誘いとして諸国を旅行した時に立ち寄った藤原伊集院村にて、甘藷が馴染に馴染るものであることを知り、回禁を犯して郷里に持ち帰り、付近の農民に栽培法を教え、やがて瀬戸内海沿岸に普及するに至った。その後の大飢饉の際、この甘藷栽培地帯では一人の餓死者も出なかったと言われている。

32 市 記 【史跡】 正月古墳石棺群



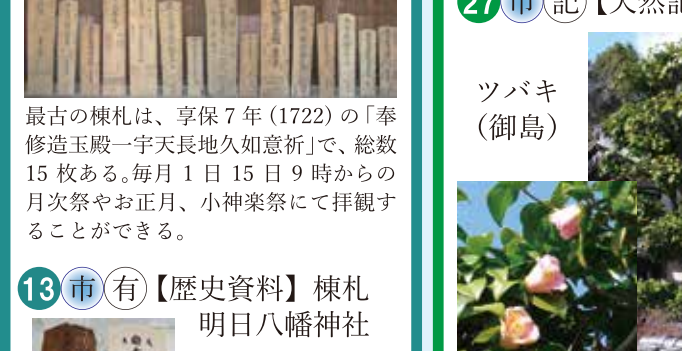
3方所に分けて計14基の群集墳が広がっており、石製紡錘車や鉄製刀、鉄刀などが出土している。石棺の構造上あるいは出土物の編年観から、古墳時代中期(5世紀)に比定されている。遺跡は正月古墳公園として整備されている。

18 国 重 【工芸品】 東門坊 鉞子 銅鑼



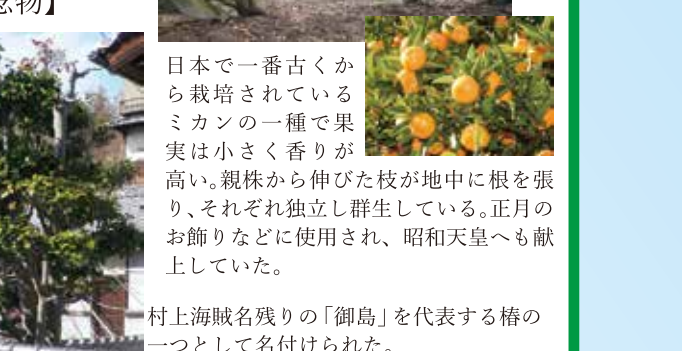
鉞子と銅鑼の二具、仏教儀式に用いられる梵音響器。東山(東島村)の遺跡から出土したもので、銅鑼の内部に記した銘文により、正徳元年(1322)年10月に極楽寺(現神奈川県鎌倉市)の住持の俊海が大山祇神社御宝庫の法具として奉納したことがわかる。俊海は、鎌倉幕府より伊予国分守を命じられ、瀬戸内海沿岸の諸国における復興を命じられるなど、西国との関連が深かった。作行も優れ、製作下限が明らか基準作として、中世に遡る鉞子と銅鑼が揃って伝来する貴重な遺例である。現在は、大山祇神社へ寄託され、宝物館にて公開されている。

9 市 有 【歴史資料】 棟札 大見八幡神社



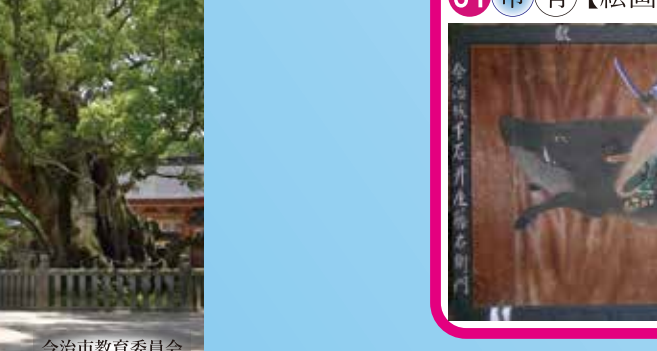
最古の棟札は、享保7年(1722)の「奉修玉殿一宇天長地久如意祈」で、総数15枚あり、毎月1日15日9時からの月次祭やお正月、小神楽祭にて拝観することができる。

13 市 有 【歴史資料】 棟札 明日八幡神社



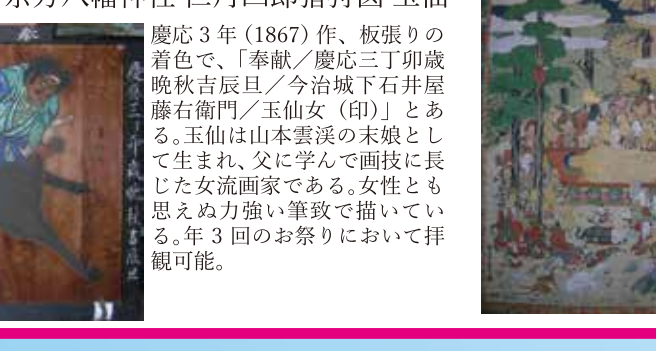
元は口総の龍児が島海岸に建立されたもので、明治中期に現在の万福寺境内に移転したといわれる。昭和51年の境内整備工事中、塔の下から一つの符書が出土し、本寺で供養保管された。

31 市 有 【絵画】 宗方八幡神社 仁丹四郎猪狩玉仙



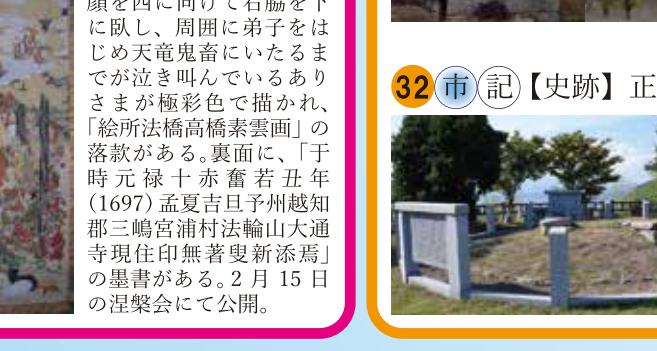
徳享3年(1867)作。板張り着色で、「奉祝/慶応三年三月丁卯 徳享三回のお祭りにおいて拝観可能。」とある。中国の三国時代の英雄、劉備が渡河する。見るからに勇壮な図柄である。年3回のお祭りにおいて拝観可能。

15 市 有 【絵画】 大通寺 涅槃仏画 高橋素雲



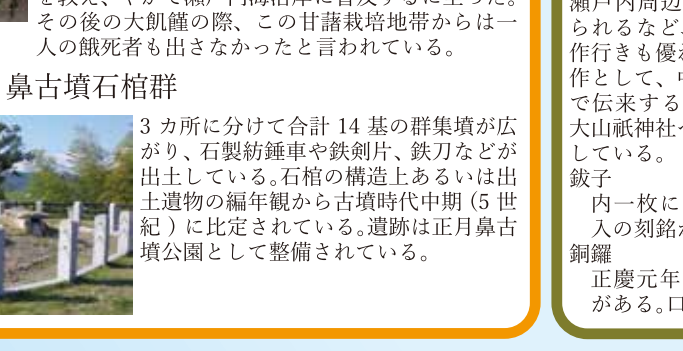
涅槃図で、頭を北向きに、顔向西に向けて右脇を下にして臥し、周囲に弟子をはじめ天竜鬼畜がいるまで泣き叫んでいるありさまが多彩色で描かれ、「法華法橋高橋素雲画」の落款がある。裏面に、「于時元禄十赤番者 丑年(1697)夏夏旦子州越前郡三嶋宮浦村法輪山大通寺現住印無著曼新添斎」の墨書がある。2月15日の涅槃会にて公開。

32 市 記 【史跡】 正月古墳石棺群



3方所に分けて計14基の群集墳が広がっており、石製紡錘車や鉄製刀、鉄刀などが出土している。石棺の構造上あるいは出土物の編年観から、古墳時代中期(5世紀)に比定されている。遺跡は正月古墳公園として整備されている。

24 市 有 【石造美術】 宝篋印塔 (骨壺共)



元は口総の龍児が島海岸に建立されたもので、明治中期に現在の万福寺境内に移転したといわれる。昭和51年の境内整備工事中、塔の下から一つの符書が出土し、本寺で供養保管された。

34 市 有 【建造物】 観音堂



延享2年(1745)に建立。観音堂厨子内に安置される救世観音(聖観音立像)は秘仏で、開帳は60年に一度。前回は昭和57年10月31日)

14 市 有 【歴史資料】 棟札 大見薬師堂



大見薬師堂の棟札。大見薬師堂の歴史を伝える貴重な資料である。

17 県 記 【天然記念物】 生樹の門



奥の院へ通じる道にあるクスノキで、根回り32m、目通り20mの巨木で、樹齢は推定2千年余。地上近くで二つの幹に分かれており、一つの幹は枯死している。真中が門のような洞をなし、奥の院参拝の通路となっていることから「生樹の門」の名がついたといわれている。

